

The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

欧米では、男女間に限らず親子の愛や物に対しても使われる love(ラヴ)がなぜか日本では男女間の愛に思われがちのように、missも日本では音楽業界を通して ‘I miss you.’ (あなたがいないくてさびしい=会いたい) というフレーズごと知られるようになったためか、男女間の意味合いがまだまだ強いように感じます。しかし、そうではなく、人が人や物事の不在に気づき、なつかしく思ったり、寂しく思ったりするときにたいへんよく使われます。

信仰復興運動が根強く続いていたニューイングランドの地で、自分に正直に生きることと世俗化は別なものであると声に出すことができなかったエミリーは、この詩をどんなときに、どんな思いで作ったのでしょうか。非常に気になる作品です。

‘I know lives, I could miss’

I know lives, I could miss
Without a Misery-
-Others-whose instant’ s wanting
-Would be Eternity-
The last - a scanty Number
- ‘T would scarcely fill a Two
-The first-a Gnat’ s Horizon
Could easily outgrow-

居なくとも寂しくない
人はたしかにいるー
一方いなくなると無性に
恋しくなる人もいるー
後者の数は乏しくー
両者の差は大きいー
前者は一ブヨの視界でも
すぐ目にはいるー

(へ短調作品34-Yahoo!ブログ より)